

18-11 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科（領域）：社会科（公民）

単元（教材）：「国際社会の課題と私たちの取り組み」

対象：附属桃山中学校 3年 1組

授業者：三間 英孝先生（社会科）

1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

世界には貧困、戦争など様々な課題が存在している。しかしながら、いずれの課題も児童生徒の生活からは遠く離れたことのように感じられることが多い。低学年であれば、共感的に関わるアプローチが有効であるが、高学年の生徒たちには、一定の知的理解を踏まえた上で、自身との関わりを認識することが必要になる。

この授業では、生徒たちに貧困問題への関心を喚起し「自分事」として捉えられるようにするため、多くの工夫がなされていた。

一つ目は、生徒たちがソマリアの海賊の写真を見て、なぜ海賊行為を行う必要があるかを考える活動である。フィクションの世界のことのように思われていた「海賊」が現実にいること、またその背後に貧困問題があるという事実を知ることによって、この問題への関心が一気に高まった。この関心を基盤として、生徒たちは貧困問題の解決方法を考えるという課題を意味のある課題として受け止めることができた。

二つ目は、貧困は途上国だけでなく、日本においても社会問題となっていることを知ることである。子ども食堂を運営している活動家へのインタビュー動画である。インタビューは教員自身が行ったものであること、また学校の近くの地域で活動が行われていることなどの事実も紹介された。また、活動家が自分自身の体験も踏まえ、活動に込めた思いを語ってくれたことで、生徒たちにとって貧困課題がリアルな課題として受け止められていた。

2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

グローバルな課題を「自分事」として受け止めることは、グローバル・スタディーズの重要な側面である。

本授業でとられた「事象への関心を強く喚起する」「自分の身近にも同じ構造の課題があることを知る」といった情緒面、知識面からのアプローチの他にも、例えばグローバル・イシューとしての見方・考え方に比重を置いて「自分自身もその事象に影響を与えるシステムの一部であることを知る」といった方法もありうるだろう。

今後、より多様な方法が、グローバル・スタディーズの取組の中で開発されていくことを期待する。